



無機材料化学研究室(226A室)



無機機能材料研究室(221B室)



高分子工学研究室(214室)



資源利用化学研究室(230室)

工化時報

第 31 号



Since 1938



工化会会長あいさつ

工化会会長 古橋 雄二

(昭和 52 年卒)



昭和52年学部卒業、工化会会長の古橋です。昨年6月に前会長深沢豊治様から会長職を引き継がせていただきました。初めての経験のため諸先輩、先生方々にご教授いただきながら進めさせていただいております。

さて最近の就職活動に関しまして少し述べさせていただきます。2013年9月に日本経済団体連合会から発表された倫理憲章(改定)で採用選考に関する指針が示されました。広報活動の開始時期が、3月に変更になりました。また選考活動の開始時期が従来の4月から8月に変更された。もし企業が10月1日の内定式を従来通り行うのであれば、学生さんと企業はわずか2カ月の間に選考を終わらなければならない事になります。

これは学生さんが本分である学業に専念する十分な時間を確保するため、採用選考活動の早期開始の自粛を求めるものであるようです。以下に簡単に比較してみました。

採用選考活動のスケジュール比較												
	学部3年・修士1年次				学部4年・修士2年次							
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
現在 (2015年度)	12/1以降広報活動開始				4/1以降選考活動開始						10/1以降内定	
												
見直し後 (2016年度)				3/1以降広報活動開始					8/1以降選考活動開始			
												
※広報活動:募集告知、会社説明会など												
※選考活動:面接、筆記試験など												

そこで学校としてもそれまでの期間に学生さんに社会人に必要とされているさまざまな事を先輩方々の経験を聞かせて学ばせる「業界職種研究会」を企画し2014年秋に実施されました。物質応用化学科の研究会は10月15日水曜日にCSTホールで開催しました。

研究会では、僭越ではございましたが私の社会人人生を就職活動から現職に至るまで学部卒業から日本企業への就職、日本企業から外資系企業2社、そして現在の日本企業へ

転職した変遷を当時の自分目線での仕事への取り組み、そして最近の新卒学生を採用する企業の面接担当役員としての目線での人の見方などを説明させていただきました。話しの中には私が働いた業界、職種、実際の業務などを盛り込みました。また社会にでて役立つ事柄などに優先順位を付けて説明させていただきました。当日会場で参加された学生さんに質問してみると各自不安要素や疑問点を抱えており、就職活動解禁までの間の下準備の役に立てたものと思っております。

さて物質応用化学科では夢実現プロジェクトの一環として学生と企業の距離を縮め、学生さんの夢を現実にしたいという目的から企業と学生が直接触れ合う就職なんでも相談会とし、業界・企業徹底研究セミナーを企画しました。そして2015年1月17日(土)に1号館121号室、122号室で開催しました。研究セミナーには大学院生27名、学部生137名が参加されました。社会に出る前の学生さんたちの興味の高さを感じました。また企業側からは22社の参加があり、企業からはその企業が求めようとしている人材像などのお話しがあり、参加された学生さんたちは熱心に将来を見つめ説明に耳を傾けておりました。参加学生からは社会人になってからの心配事などが質問され双方向での内容の濃い懇談会ができました。



工化会主催 業界・企業徹底研究セミナー風景

皆様からの工化会へのご支援をお願いし、私の挨拶にかえさせていただきます。



科学技術の進歩・発展のために

ヤマト科学株式会社

☎ 0120-405-525 (お客様総合サービスセンター) <URL> <http://www.yamato-net.co.jp>

平成26年度就職状況



応化進路指導委員会
委員長 小嶋 芳行

進路指導委員会報告

昨年度から再び学生に有利な就職状況となっている。これを受け学校への求人も多くなってきているが、当学科への就職募集の中に建物の管理者など土木、建築系の就職が多く見られた。平成25年度の学部、大学院の内定率は、それぞれ83、87%であった。これに対して、平成26年2月24日現在のそれぞれの内定率は、85、84%であり、昨年度と変わらない状況である。今年度は景気の影響を受け、出だしはよかったものの10月以降の伸びが見られなかった。就職が決まらない学生の多くは、まじめであるがゆえに自分が本当にしたいことがわからず、迷ってしまい、なかなか思うような就職活動ができていないようである。現在の3年生あるいは大学院1年生には早くから自分の志望(業種、職種)などを決められるような啓蒙をした。また、工化会会員の皆様にも就職に関してご協力いただければ幸いである。

一方、平成27年度卒業生(平成28年3月卒)の就職活動の日程が大幅に変わる。従来の就職活動の日程としては、卒業年の2年前の12月1日(3年生の12月)の企業説明会開始、翌年4月1日面接解禁であった。来年度からは前年の3月1日(3年生の3月)企業説明開始、8月1日内々定となる。しかしながら、実際には3月以前からも会社説明会に変わる1日インターンシップを多くの会社が実施するようになってきている。昨年5月から就職のアドバイザーによるセミナーなどを現在の3年生および大学院1年生に対して行ってきた。このような啓蒙活動により、夏休みには50名弱の学生がインターンシップを体験するようになった。さらに、研究室配属の決まった10月中旬よりさまざまな業界を知る業界セミナーを行い、12月中旬まで16社の会社の人事あるいはOBからその会社を取り巻く業界に関する話をいただいた。さらに、平成27年1月19日には22社の会社の方に来ていただ

いて「夢」実現プロジェクト(例年行っていた就職セミナーに代わるイベント)を行い、学生と会社の方が直接話のできる場を提供した。いろいろな制約があったが、参加した学生も160人を超えていた。午前中、学生は7人のグループとなり就職に関する質問を会社の方に行い、さまざまなアドバイスを受け、そして午後は各会社の説明をしていただいた。このように、いろいろな経験をした現在の3年生および大学院1年生が自らの望む業界、業種の会社に受かり、そして活躍することを期待したい。



業界セミナー



夢実現プロジェクト

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社 深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤 豊史

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル



株式会社

三栄興業

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-347

志と覚悟・情熱 60年卒 鈴木 義弘

TEL 048-955-1632 E-mail: sanei-k@misato-net.com

ホームページ: <http://www.misato-net.com/3ak/>

学部・短期大学部合同卒業記念式典始動

昨年3月25日、物質応用化学科と生命・物質化学科で初となる合同卒業記念式典が挙行された。これまで、各研究室で別々に行っていた卒業証書授与式を物質応用化学科全体での開催とし、更に生命・物質化学科と合同で行うことで、研究室の同期や仲良い友人だけではなく、200人以上の同級生との交流を図ることを目的として計画されたものである。卒業記念式典は卒業証書授与式と卒業記念パーティーの2部構成であり、卒業証書授与式は滝戸副学長や深澤工化会会長、その他来賓の方々からの御祝辞をいただき、また、一新会賞、松本賞、他各賞の授与式を執り行った。卒業記念パーティーは各研究室から幹事を選出し、幹事を主体として約8ヶ月間かけて計画を練り、実行した。

初の試みのため、内容は全て白紙の状況からの立案となった。目的を基に、卒業生全員が楽しめ、思い出に残るような卒業記念式典を目標として、幹事内で打ち合わせを行った。その結果、他研究室の友人と話せる時間を作ること、同じ研究室の同期や特定の友人以外とも話せて盛り上がるように参加者全員をグループに分けて回答するクイズを行うこと、卒業記念式典の写真をまとめ、参加者に配布を行うことを計画した。

当日は至らない部分も数多くあったが、他幹事の働きや先生方の支えもあり、目的は概ね達した。多くの卒業生に楽しんでもらえ、想定よりも盛り上がったと感じた。この成功は幹事や先生方のみならず、来賓及び工化会の惜しみない支援のお陰であることに感謝の意を示したい。

平成25年度卒業記念式典幹事代表 石川優香



平成 26 年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞の受賞等の活躍をご紹介します。(集計期間：平成 26 年 2 月～平成 27 年 1 月)

【教員・学生の部】

- ・ 澤口孝志 (高合) マテリアルライフ学会 総説賞
佐々木大輔
- ・ 遠山岳史 (無機) ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞
- ・ 角田雄亮 (資源) 廃棄物資源循環学会 Excellent Research Award for Poster presentation
岡真菜美
平野勝巳
- ・ 佐久間隆史 (無機) 第 25 回 廃棄物資源循環学会研究発表会優秀ポスター賞
- ・ 金野一希 (高合) 第 7 回ハロゲン利用ミニシンポジウムポスター賞
- ・ 荒井勇人 (分析) 第 31 回イオンクロマトグラフィー討論会ポスター賞
- ・ 古川拓哉 (有合) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(口頭)
- ・ 柿沼祐香 (高合) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(口頭)
- ・ 横山 諭 (環微) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(ポスター)
- ・ 藤田真宇 (環微) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(ポスター)
- ・ 三浦拓也 (高合) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(ポスター)
- ・ 澤口正博 (資源) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(ポスター)
- ・ 石井勇介 (高合) 理工学部学術講演会, 優秀発表賞(ポスター)

【OB の部】

- ・ 長濱 直 (昭和 41 年卒)
第 10 回ヘルシー・ソサエティ賞 ボランティア部門(国際)
- ・ 川北 誠 (昭和 61 年卒)
(一財)エンジニアリング協会 エンジニアリング功労者賞

昭和 60 年卒 市原英樹氏 NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演

市原氏(分析)は卒業後、大成建設(株)に就職しました。平成 27 年 2 月 9 日の番組では、東京・旧赤坂プリンスホテルが、粉じんも騒音も出すことなく、美しく魔法のように徐々に解体され、ビル設計者の思いを無にせず、ビルの終焉までも美しくありたいという、この夢のような新工法の技術開発の陣頭指揮をとった市原さんが紹介されました。

平成 24 年に、第 14 回国土技術開発賞最優秀賞を受賞。「テレコップシステム」の更なる進化が注目されるところです。

クラス会・同窓会の報告

日本大学理工学部工業化学科 15 期同期会

昭和 30 年 3 月卒業後、第 1 回の同期会を 3 年後、山の上ホテルで開催、第 2 回目は 20 年後の昭和 50 年に、主任教授の中原万次郎教授をお招きして帝国ホテルで開催。第 3 回目からは、会員が「グランドヒル市ヶ谷」に勤務していた関係から、同ホテルで 2 年毎に開催することになった。第 9 回は、卒業後 50 年を記念して「山の上ホテル」で開催。記念誌「激動の幾山河」を発刊し、懐かしい母校の教室や実験室を見学させてもらい大いに盛り上がる。第 12 回は平成 23 年 4 月に開催を予定していたところ、直前 3 月 11 日の「東北・関東大震災」の発生に伴い翌年に延期、翌年 4 月 10 日に開催した。同期会代表は、学生時代の学生長 鳥谷部哲三朗。

同期会は、開催当日会費を徴収し残金を積み立て置き、会員の不幸の際に、香典を奉げております。第 12 回目の開催(平成 24 年)時、会員が今年度中に皆傘寿(80 歳)を迎え気力は充実しているが体力の自信が揺らぐ齡とみて、同期会の開催は今回をもって閉じることとして、今回の会費は無料とした。今後は、有志による懇親会を年 2 回開催することとして今日に至っている。

博士号を取得した同期は、長谷川稔「薬学博士」(日大)、青木茂樹「工学博士」(日大)、小澤敏夫「工学博士」(東京都)、綾野怜「工学博士」(三菱瓦斯化学)。

叙位叙勲は、中山直也「勲四等瑞宝章」(防衛)。特に、綾野怜博士は、「樹脂開発の経験」と題して後輩達への講演が日大新聞(25. 10. 20)に掲載された。



第 15 期同期会 平成 24 年 4 月 10 日 於グランドヒル市ヶ谷
※本原稿は 30 号に掲載すべき内容ですが、編集の勝手により本号に掲載いたしました。関係者には深くお詫び申し上げます。

第4回(平成26年)工業化学科昭和49年、 短期大学部昭和47年卒業生・大学院昭和51 年修了生同期会(通称:四駆プラス)開催報告

第4回四駆プラス会は平成26年4月5日(土)に居酒屋プラザプラスワンで行われた。第1回目に比較して参加人数が半減しましたが、大学時代からの紆余曲折の軌跡に花が咲き盛り上がりました。第回目は平成27年4月4日(土)17:00プラザとなった。尚、同期へのご案内往復ハガキの作成と郵送(実費)は、工化会名簿担当(伊掛先生)のサービスです。感謝申し上げます。



同期会発起人[青木壮慈朗(油化), 岡田雄二(高工), 尾島光春(分析), 菅野昭(油化), 佐藤憲一(有物), 澤口孝志(高合), 故志村修司(燃料), 中山郁雄(有物), 野原孝司(固触), 堀尾良宏(固触), 元木英二(無機), 山中光徳(化工), 和久井弘子(固触)]

問い合わせ先: 澤口 sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp

2015年高分子合成同友会開催のお知らせ

高分子合成研究室は1972年に設立されてから2015年3月までに1,000名を越える卒業生を輩出しており、本年45期目の卒業研究生を迎えた。第13回目の総会は2014年11月8日(土)駿河台校舎1号館にて岩村秀先生(日本大学客員教授)からご講演をいただき、約100名の参加により大盛況であった。大学院生の研究発表会や参加者の交流を目的としたイベントも同時に開催した。本会は豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(澤口 sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp 03-3259-0819; 萩原 hagiwara.toshiki@nihon-u.ac.jp -0433; 星 hoshi.toru@nihon-u.ac.jp -0825)にご一報を! 第13回同友会総会は2014年11月14日(土)駿河台校舎1



号館にて開催され、年度末には澤口孝志教授の最終講義を計画している。(同友会役員 木村文紀会長、岡崎弥寿子、片桐正志及び萩原俊紀副会長、三柴晶子幹事長、阿部佐知子及び星徹会計、高間幸夫及び工藤慎平監査)

澤口孝志教授 高分子学会フェローアカデミア受賞・日本化学会理事就任祝賀会のご報告

澤口孝志教授は、高分子化学分野への長年の尽力により日本大学では初めての高分子学会フェローアカデミアを受賞、日本化学会理事への就任が決まりました。その祝賀会を高分子合成研究室同友会が主催となり 2014 年 6 月 16 日(月)にホテルオー



クラ東京(東京都港区)にて開催しました。高分子合成研究室同窓生が中心となり、工化会会員、大学職員、関係企業など総勢 240 名のご参加をいただきました。会は岩村秀客員教授の挨拶に始まり、滝戸俊夫先生、妹尾学先生、角五正弘客員教授からも祝辞を頂き、大盛況でした。



PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-8585 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL: 048-561-5221

E-mail: SOUMU@showakvc.co.jp

ホームページ <http://www.showakvc.co.jp/>

昭和53年卒 代表取締役社長 **池本 俊一**

退職のご挨拶

滝戸 俊夫 (昭和50年博士課程修了)



物質応用化学科の皆様には大変お世話になりました。すでに皆さんご存じのことですが私は、平成26年9月末日をもちまして日本大学理工学部を退職いたしました。昭和52年4月に理工学部理工学研究所に助手として就任して以来、38年半の理工学部人生でした。助手時代の13年間は、創設もない理工学研究所分析センター(現材料創造研究センター)に初導入されたフーリエ変換核磁気共鳴装置のオペレータとして2号館地階のNMR室にて主に有機系の研究室から依頼される化合物の測定並びに解析、さらに装置の管理運営を任されました。

幸いなことに、勤務地が慣れ親しんだ2号館であったため、勤務時間以降は、学部から大学院まで薫陶を受けた板橋國夫教授のご理解と許可をいただき、有機合成研究室で有機硫黄化合物の合成と反応の研究を続けました。平成元年3月には、板橋先生がご退職され、同年4月より滝戸は理工学部工業化学科に移籍、専任講師となって研究室スタッフに就任しました。また平成4年、新たに着任された妹尾学先生とともに教育研究を発展させました。特に相間移動触媒を用いた両親媒性分子チオイミニウム塩を利用したチオクラウンエーテル類の合成では企業助成金や製糖技術研究会賞をいただき、研究成果はアメリカ化学会刊行シンポジウムシリーズの相間移動触媒特集に原稿依頼されるなど思い出深いものがあります。

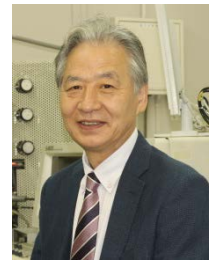
学部運営面では様々な委員・委員長を経験後、理工学部次長(駿河台校舎)の任命を受けました。これらの経験を基盤とし平成21年から平成27年までは第13代理工学部長、さらに平成26年から平成27年までは副学長として学部・大学の改革に注力させていただきました。学部改革の成果の一つである新校舎建設は本年4月から槌音が響き、理工学部創設100周年までに完成する運びとなっています。ご期待ください。

また学会関連では、日本化学会、有機合成化学協会等での論文誌編集委員、幹事、事業委員等を担当し、教育関連学会では、関東工学教育協会常任理事、日本工学教育協会副会長を務めさせていただきました。

以上、私が物質応用化学科勤務に至る経緯と経歴の一部を示しましたが、これらの事柄は、恩師そして物質応用化学科の先生方さらには研究室の卒業生のご支援・ご協力の賜物であり、衷心より感謝申し上げます。長期間にわたり誠にありがとうございました。

奇縁と女神の微笑みに いざな 誘われた高分子研究 39 年

澤口 孝志 (昭和51年修士課程修了)



満65歳となり2015年3月末に定年退職。

1976年(昭和51年)4月助手に着任以来、学生諸君、教職員の皆様と人生を語らい楽しみながら39年間、恙なく2号館で過ごすことができた。心より感謝申し上げる。

思い起こせば、日本大学との**奇縁**は王子製紙(株) 苫小牧工場にある。函館工業高校工業化学科卒業後入社した王子製紙の国内留学制度である。木材からセルロース繊維(高分子)を取り出す製造係として4直3交替勤務し、2年目に受験できる留学試験に合格し、指定校短期大学部二部応用化学科に形式的な受験で入学した。中央研究所で開発の実験補助業務後、夜、日大一高(両国校舎)での講義、2号館での実験で学んだ。所謂勤労学生であるが、15名程度の同級生の士気は極めて高かった。2年後学部(一部)3年に推薦編入した。8号館5階の大教室で200名以上の学生が授業を受けていた。周りが煩くて授業に集中できない環境に嫌気がさし、出席を取らない授業はできるだけサボり、**独学**を決め込んだ。学生実験は週3日間とテーマも多彩であったが、セルロースが奇縁となり高分子合成研究室に入室した。研究もサボり、入社時に始めた漕艇(フォア)の仲間たちと国体出場を夢見て練習に励んだ。しかし、研究室の上司から日本化学会秋季年会で口頭発表せよとの指令が出て、状況が一変。王子ユポ合成紙(PPとCaCO₃の複合材料)を用いた拙いデータを広島大学で発表した。立見の聴衆があり、研究って面白い!と素直に感じた。これが大学院進学を熱望した理由である。だが会社は大学院進学を認めず、**思い立ったが吉日**とまっしぐらに退社、大学院に推薦入学した。会社の奨学生を断ち切った無一文。研究室を根城にしてアルバイトと実験に明け暮れた苦学生だったが実に痛快だった。が、与えられたテーマで研究成果は得られなかった。窮し自らテーマを変え1年生終了時に学術雑誌に論文3報投稿し、2報が掲載された。**女神**が微笑み助手に着任。嬉しかった。大学受験戦争も知らない絶好調新米助手、ほどなく**チャンス**から**ピンチ**へ: 213室から225室、242B室に移動を余儀なくされ自慢の助手20年。自由時間を得た。無位無官の40代半ば生涯一助手を決め込んだ矢先、再び**女神**が微笑んだ。恩師妹尾学先生である。助手以来の研究を纏めると新規高分子複合材料の開発であり、**軽量化**にも寄与する21世紀の新素材である。

奇縁と女神の微笑みによって、1000人を超す高分子合成研究室の同窓生とともに歩むことができた至福の39年間。研究室はじめ日本大学関係の皆々様に改めて御礼申し上げます。

新 任 紹 介

環境微生物学研究室
助手 小田真弓



平成26年4月より物質応用化学科の助手に着任いたしました小田真弓と申します。私は日本大学短期大学部応用化学科(現:生命・物質化学科)を卒業後、本学科への編入学、博士前期課程への進学を経て、東京農工大学大学院工学府生命工学専攻博士後期課程で研究に従事してまいりました。現在は主に、専門教育科目である専門化学実験を通じて、学部2・3年生に化学教育の指導を行っています。また並行して、極限環境に生育する深海微生物に魅了され、所属研究室の学生と共に微生物由来のタンパク質の機能や有用性を明らかにする研究にも取り組んでいます。

本学科は自身が研究の世界に身を投じた原点であり、そのような場で教育に携わる機会を与えて頂きましたことに深く感謝申し上げます。今後は一教員として、教育や研究を通して社会に貢献できる学生の育成に尽力する所存です。経験が浅く、至らない点多々あるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新 任 紹 介

無機機能材料研究室
助手 渡貫泰寛



平成26年4月より無機機能材料研究室で助手に着任しました渡貫泰寛と申します。平成20年に日本大学理工学部に入學し、修士課程修了までの6年間、物質応用化学科の諸先生方には大変お世話になりました。これからは教員として学生実験を担当することとなり、身の引き締まる思いです。学生時代にご教授いただいた知識、心構えを学生に伝え、後進の育成に微力ながら貢献したいと考えております。修士課程までは触媒のナノ構造制御を行い、構造と触媒活性の相間の解明に取り組んでおりました。現在は新たに触媒と水素貯蔵材料を組み合わせ新たな反応系について研究し、近年注目されている水素社会実現の一助となれるよう精進して参ります。助手に着任してからまだ間もない若輩者ですが、工化会会員の皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

工化会賞受賞者の声

平成26年度 70周年記念賞若手研究者支援受賞者



上宮 悠

(2014年博士後期修了)

物質生命化学研究室卒

現在、私は映像ディレクターとして株式会社タイムラプスビジョンに勤務しており、顕微鏡映像を主体とした実験映像や、医薬品のプロモーション映像などの制作を行っています。

一見、研究とは関係のなさそうな映像ディレクターという仕事ですが、医師や研究者を納得させる実験映像を作るためには、映像制作の技術だけでなく、実験に対する理解力や考察力、そして正しい筋道で話を組み立てる能力が求められます。そうした観点から、本業務を遂行するに当たっては、大学院で培った研究能力や経験が、何よりも役に立っていると感じています。

社名にもあるタイムラプス撮影法で、時間を縮めて細胞を観察すると、細胞はあたかも意思を持っているかのように動きだし、分裂・増殖などの生物学的現象をリアルに描きだします。教科書や書籍、文献からは決して得られない、現象に対する確かな説得力が弊社の顕微鏡映像にはあると思います。日本大学で培った能力・経験を活かし、多くの方々にリアルな生物学的現象を伝えられるよう、そして医学・科学の発展にも寄与できるよう、これからも業務に尽力する所存です。

弊社映像に興味を持たれた方は、是非、弊社ホームページもご覧頂けると幸いです (<http://timelapsevision.com>)。



小出 優一郎

(2014年博士後期修了)

高分子工学研究室卒

現在、ものづくりの街として知られる大田区にある金属の切削や樹脂製品の射出成型などを取り扱う(株)クライム・ワークスの経営企画室戦略技術担当として勤務しております。

学生時代に高分子材料の物性や内部構造について研究してきたため、航空機やエネルギー分野で近年注目されている軽量化を図った金属部品の樹脂化などの案件の際には、物性や生産性を見越した樹脂材料の提案などにその経験が非常

に活かされております。また、顧客と技術要求についてすり合わせをする際には、専門知識もさることながら、研究室で学ばせていただいたロジカルな思考がこれまでに関わったことない金属材料の開発案件の際にもスムーズな対応をすることができ、非常に貴重な経験をさせていただいたと改めて感じられとても感謝しております。

今後は大学との共同研究などから学術分野の知見と現場の技術双方を融合させた、先進的な科学技術にもとづく質の高いものづくりを実現したいと考えております。



朱 睿

(2014 年博士後期修了)

高分子合成研究室卒

平成 19 年 10 月に物質応用化学科の研究生として澤口研究室に入った後、平成 21 年 4 月に大学院へと進学し、平成 26 年 3 月に無事、博士(工学)の学位をいただくことができました。

平成 26 年 4 月に日本ケミコン(株)に入社し、基礎研究センターに配属されました。当初、仕事ができるかどうかの不安がありましたが、だんだん職場生活に慣れました。基礎研究部門では、次世代キャパシタに関する研究開発を行っており、現在キャパシタの高電圧化に関する研究に取り組んでおります。キャパシタの高出力密度、高信頼性・安全性、長寿命特性を利用して車の蓄電デバイスとして利用できる技術を開発することを通して、まったく違った未来の車社会を作るということに非常にやり甲斐を感じています。キャパシタに関する電気化学は学生時代に取り組んだテーマと少し離れる分野もありますが、この分野の奥の深さにはいつも驚かされるばかりで、どれだけ探求していても終わりがないうつづく感じます。今後とも、日本大学卒業生の一人として、頑張っていきたいと思っております。

平成26年度 70周年記念賞奨学生支援受賞者

資源利用化学研究室 多胡 敦史

(平成 26 年 物質応用化学科卒)

現在、私は乳酸を抽出しつつ乳酸発酵を行う、連続的な乳酸抽出発酵プロセスについて研究を行っております。大学院に進学し、研究に打ち込むことができているのも、ひとえに工化会の皆様のご支援の賜物であると深く感謝しております。今後多くの人に支えられていることに感謝し、社会に貢献できるように努力してまいります。これからも、多くの人に支えられていることに感謝しつつ、為せば成るの精神で研究に打ち込み、社会に貢献できるように努力してまいります。また、工化会の皆様が今後も大学院に進学する学生の御支援を続けてくださることを願っております。

平成 26 年度工化会事業報告

平成 26 年度工化会通常総会は、駿河台校舎 8 号館 5 階 852 室にて平成 26 年 5 月 31 日(土)午後 15 時より役員・会員 349 名(内委任状 273 名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成 25 年度事業報告および会計報告、ならびに平成 26 年度事業計画および会計予算案、役員の改選案の審議を行い、これらを承認しました。また深澤会長より、平成 25 年 7 月 25 日(木)に創設 80 周年事業準備委員会が、平成 25 年 12 月 21 日(土)に「マネージャーサロン」が開催されたことが報告されました。通常総会終了後には、本年もホームカミングとして還暦を迎えられる卒業生の皆様もお招きして、5 号館 1 階の学生食堂にて懇親会を開催し、会は盛況の内にお開きとなりました。

なお本年度は 3 年に一度の工化会役員の改選の年に当たり、平成 26～28 年度の会長には古橋雄二氏(昭和 52 年卒業)、副会長は尾島光春(昭和 49 年卒業)、太田延幸氏(昭和 54 年卒業)、伊藤和宏氏(昭和 57 年修了)が選出されました。また、工化会の各委員会の委員長には次の学内役員が専任されました。

庶務委員会：栗原、会計委員会：清水、会員委員会：深津、
会報委員会：平野

一方、本年度は理工学部校友会の役員の改正もあり、平成 26～28 年度の校友会長として深澤豊史工化会前会長が選出されました。

さて本年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、駿河台オープンカレッジ 2014、駿河台入試フォーラム 2014、第 15 回日本大学理工学部一日体験化学教室、CST オープンキャンパス 2014、第 9 回物質応用化学科就職セミナー、第 8 回合格者相談会、物質応用化学科学位記伝達式ならびに第 7 回短大ものづくり&サイエンススクールの 8 つのイベントに対する後援、工化会独自の講演会の開催、工化会賞の授与が決まりました。

この工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した者を工化会として表彰するものであり、本年度も厳正な選考を行い、表彰者には、3 月 25 日(火)の学部・大学院・短大の学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設 70 記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象)、奨学生支援(学部の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短の修了・卒業予定者で高難易度の資格免状等を取得、または

好成绩を収めた者が対象)については、それぞれ、4名、1名、22名に対して支援・授与が行われました。

最後に平成26年度の工化会予算については、予算を經常会計予算と特別会計予算の2種類作成しており、平成26年度經常会計予算は総額362.6万円で、学生支援事業費13.0万円、各種講演会・行事補助費92.0万円、卒業生支援事業費102.8万円、その他5.0万円、次年度繰越金149.8万円であり、特別会計予算は総額1307.5万円で、卒業生支援事業費91.0万円、会費・寄付金郵便振替対応業務3.9万円、次年度繰越金1212.6万円を計上しています。なお平成26年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

なお、平成26年度の工化会主催行事ならびに後援事業の概要は下記のとおりです。

① 4月19日(土)16:00～18:00 役員会

役員41名出席(内委任状20名)

② 5月31日(土)15:00～16:00 通常総会

349名出席(内委任状273名)

③ 6月1日(日)駿河台オープンカレッジ2014

附属高校生167名が参加

④ 7月13日(日)駿河台入試フォーラム2014

高校生314名が参加

⑤ 7月26日(土)第15回日本大学理工学部一日体験化学教室

高校生他80名が参加

⑥ 8月2日(土)、3日(日)CSTオープンキャンパス2014

高校生992名が参加

⑦ 11月3日(日)第7回短大ものづくり&サイエンススクール

地域の方のべ97名が参加

⑧ 1月17日(土)第1回夢実現プロジェクト(第9回物質応用化学科就職セミナー)

大学院生:27名、学部生:137名、合計164名、企業22社が参加

⑨ 2月21日(土)、22日(日)第8回合格者相談会

21日(土):10組20名、22日(日)16組30名

⑩ 3月25日(水)平成26年度物質応用化学科ならびに物質応用化学専攻学位記伝達式

以上 庶務委員会

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史

会費,寄付金納入者名簿 (平成 27 年 1 月 31 日現在)

昭和16年卒	井上 秀雄	阿部 正明	石井 照明	白石 益郎
和田守 哲治	小林 清人	青山 達也	石川 隆夫	杉田 松生
櫻村 正久	周 永實	伊藤 明	宇賀治 正名	藤野 裕
津崎 統一	瀧谷 俊雄	大井 壽	越智 健二	山田 秀夫
昭和18年卒	谷川 清	奥野 士郎	飯戸 斌	鈴木 忠
浅谷 公洋	寺島 昌訓	加賀 勘之助	川上 進	昭和39年卒
金井 昇介	中嶋 貞夫	柏崎 敏郎	木村 繁夫	秋草 幸雄
昭和19年卒	藤波 篤郎	久保田 景一	北林 伸一	秋本 幹夫
脇 幹夫	八田 肇	熊谷 祐一	黒尾 良康	石井 国昭
日暮 忠弘	米山 廣保	小林 脩一	佐藤 進	石川 和正
昭和20年卒	渡辺 文夫	才木 義夫	斎藤 博	片岡 康浩
神本 慶助	荻野 堯	齋藤 二郎	坂本 昌伍	神谷 中
重藤 捨雄	高橋 久雄	清水 巖	鈴木 善治郎	亀村 轟
澁谷 洋平	米田 虎雄	高木 三郎	炭田 幸宏	児玉 義宏
杉浦 銀蔵	昭和30年卒	滝淵 幸二	崎下 昌道	佐藤 良博
昭和21年卒	綾野 怜	中辻 賀治朗	高柳 裕臣	斎藤 伸之
石川 幸一	大塚 進	中山 直之	直井 蕃	斉藤 博之
岸 照二	金井 孝道	永井 滋	松嶋 精一	斉藤 守園
斉藤 光平	高野 俊彦	西野 武	松本 規雄	鈴木 功
下河原 一恵	寺島 賢治	藤田 亘弘	村越 英彦	鈴木 庸一
長崎 行太郎	古川 新	箕浦 滋	矢本 環郎	瀬尾 宏
馬場 和朗	本橋 久弥	宮森 隆志	横山 樹静	竹石 肇
昭和22年卒	植竹 和也	山内 良夫	渡辺 鏑治	武田 幸久
大川 襄治	笠間 三男	吉田 靖	佐藤 貞男	奈良木 亨丞
昭和23年卒	臼井 徹郎	神保 忠男	砂川 憲二	中沢 甫
川口 清一	近藤 練太郎	広瀬 俊雄	中村 紀史	中田 博
伊東 達郎	昭和31年卒	昭和34年卒	小串 照宗	中野 洪
伊藤 譲	長縄 なを子	牛込 力夫	昭和37年卒	中林 実
昭和25年卒	尾関 富夫	大久保 勝弘	荒野 健一	仲野 一次郎
小林 猛夫	神戸 徳蔵	児玉 五男	伊地知 龍清	野口 文雄
池田 富三	川口 國雄	佐藤 忠	井上 靖治	原 襄輔
木根淵 弘水	小島 照美	玉置 憲三	奥山 正之	堀 是治
柳田 雄三	小松原 彬	貫井 徳蔵	梶山 秀矩	松村 政之輔
丹野 裕	鈴木 一郎	早川 武夫	小谷 嘉孝	矢野 彰一郎
古館 和夫	田中 宏之	藤森 信正	小林 昭朗	山崎 彰
吉岡 典照	高橋 一正	松浦 豊紀	駒井 俊雄	横田 力男
吉田 耕一	役重 典之	宮 道夫	斎藤 一郎	和田 高伸
昭和26年卒	中 嘉久	山谷 保二	清水 大三	青木 匡
鈴木 信夫	長縄 賢	横倉 隆康	庄司 翠	香山 武夫
稲垣 正	本山 方史	小田切 孝光	杉崎 秀夫	北村 隆
太田 精一	安田 信人	栗原 孝夫	丹野 彰	小屋原 英雄
加納 照彦	伊藤 ミサヲ	昆野 澄夫	塚田 政弘	鈴木 良治
垣内 宏	米倉 久雄	昭和35年卒	長谷川 修一	田中 誠悦
川西 正人	川合 武夫	安達 昭郎	丸林 功	高松 武生
昭和27年卒	柿澤 正彦	青木 弘	宮沢 武次	寺山 洋子
植松 貢	綱島 康晴	石川 好隆	森 隆郎	富士 光男
柏木 治彦	雁部 敬夫	内田 穆堂	旭 重男	坂口 栄
外山 研次	田畑 調友	笠井 啓也	石岡 龍右	藤池 曠子
日置 隆	吉田 幸三	梶原 康敬	長田 守一	昭和40年卒
木下 眞喜雄	昭和32年卒	門倉 利夫	長友 良久	高田 菊平
国分 兼一	阿久津 芳彦	河合 哲次	原 周二	浅野 勝弘
橋 敬治	網代 良太郎	定方 聰博	植木 庄左衛門	有田 喜一
和井内 徹	石井 孝二	塩澤 進	佐々木 賢明	稲葉 清彦
井出 俊一	石渡 正夫	白石 恵一	昭和38年卒	岩崎 敏一
石田 宏	工藤 富司	須永 晋	吉井 彰子	上田 輝世
高田 芳行	篠崎 清	鈴木 修	井野 二陸	上野 公雄
昭和28年卒	園田 勲	高尾 俊行	佐野 直道	牛山 恵次
石垣 恭弘	田中 昭男	瀧澤 文男	梅田 高生	神谷 恒雄
石原 健二	竹内 孟	難波 純一	大橋 隆	河村 勝弘
鈴木 一成	竹原 晃	野島 秀次郎	大村 俊晴	佐藤 瑞雄
田村 佐重	東海林 正	原 幹夫	木村 次雄	清水 博太郎
田村 碩基	西田 金營	増田 澄	久喜 徹	土田 敏一
辻 碩	藤岡 幸彦	町田 収	小松 允	向井 常雄
村上 全司	細谷 文夫	米田 修一	栗田 公夫	高橋 志郎
石田 壽文	松本 平	渡邊 高章	坂本 一	武井 秀彦
岩崎 晃	矢作 栄甫	倉形 邦英	鈴木 和夫	高間 伸一
栗田 吉男	依田 恵市	須藤 隆司	竹内 栄多	丹野 隆善
徳永 静	池島 敬宜	関口 勝	塚田 豊	西脇 鉄雄
福島 敏郎	笹原 孝	高橋 健一	西浪 毅	三谷 治郎
堀 武	渋谷 六郎	丸山 長資	西山 孝彦	飯原 打越
山口 猛	村松 勉	宮本 貴	原田 文雄	山岡 景仁
吉川 和夫	清治 英子	大石 昌弘	渡部 長幸	昭和41年卒
昭和29年卒	野村 亀利	村川 信子	新井 政義	石毛 哲男
浅川 和昭	昭和33年卒	昭和36年卒	小幡 洋	楠 勝行
井出 道明	昭和33年卒	石井 四郎	長嶋 潜	重田 勲次

高桑 豊	森崎 正美	牛込 淳彦	梅田 栄一	奥村 佳代子
藤池 誠治	加村 尚喜	末森 博文	内田 陽子	谷合 哲行
真下 清	佐藤 宗衛	長井 一良	鈴木 勝	平成8年卒
村井 直樹	瀬戸 博	大川 由明	昭和58年卒	仁平 勉
芳崎 弘一郎	寺田 高德	昭和51年卒	岩崎 好高	平成9年卒
伊藤 英武	森田 尚	荒澤 康夫	飯田 隆久	浮谷 基彦
木村 勲	昭和46年卒	井之上 佳三	伊藤 好一	谷川 実
沢田 金吾	菊田 茂	内野 好夫	栗原 清文	林 秀憲
嶋田 晋廣	小谷 将彦	重盛 正男	田村 精一	平成10年卒
館 敏夫	齋藤 政久	佐野 勝栄	高山 利治	伊掛 浩輝
白龍 美津夫	島津 学	昭和52年卒	長 茂輝	平成11年卒
彦田 一夫	杉田 康一	伊藤 隆夫	谷田貝 仁恵	関口 晃
堀内 進	鈴木 博一	池田 孝久	中山 佳則	樋口 孝夫
丸山 武紀	高橋 秀樹	栗村 嘉明	長谷川 潤	松田 弘幸
玉應 亨三	丹野 幸久	齊藤 孝	矢島 浩之	平成13年卒
昭和42年卒	冬室 誠	最勝寺 公英	久保田 博明	橋内 誠
赤坂 洋輔	三宅 久利	正田 典良	立岩 洋	小島 正浩
今田 雅躬	八木 信雄	中村 正隆	寺嶋 一彦	小林 正樹
岡見 宏道	三瓶 辰一	新国 禎倅	菅原 節子	藤田 尚之
鈴木 啓輔	飯田 隆	深澤 豊史	昭和59年卒	平成14年卒
鈴木 健之	昭和47年卒	古橋 雄二	小峰 昌弘	角田 雄亮
栃木 勝己	駒屋 伸雄	山田 勝彦	清水 繁	吉川 賢治
中井 忠男	齊藤 菊夫	岡田 慎蔵	古澤 功	平成15年卒
永井 鑑志	丹吳 秀博	関口 晴久	横山 和明	星 徹
永田 一雄	津野 岳彦	生方 正之	昭和60年卒	平成17年卒
豊田 文江	何木 正芳	昭和53年卒	太島 佐知子	赤澤 寛行
橋本 廣雄	平松 秀夫	五十嵐 博	石見 勝洋	平成19年卒
古阪 一昭	森 伸	勝亦 章行	飯田 岳之	伊藤 拓哉
山下 睦之	飯倉 登美雄	鎌 信弘	昭和61年卒	亀井 真之介
長田 義男	深澤 康俊	原田 茂	稲葉 隆史	平成20年卒
佐藤 馨	昭和48年卒	原田 哲也	片桐 正志	東條 未樹
高橋 秀雄	後藤 省二	深津 誠	小嶋 芳行	小田 真弓
成田 勝紀	櫻川 昭雄	光村 邦広	津田 聡司	小出 優一郎
能代田 順久	指田 高好	吉田 光夫	萩原 俊紀	平成21年卒
山崎 博	重藤 峻一	昭和54年卒	大井 勇治	吉田 隼人
昭和43年卒	渋谷 修	小笠原 幸道	昭和62年卒	平成22年卒
安藤 公一	瀧口 誠典	太田 延幸	加藤 慎次郎	伊藤 浩太
宇智田 俊一郎	中村 宗光	久保 俊一	塚原 文子	平野 真央
海上 幸三	長谷川 一夫	杉山 文敏	栗田 直人	平成23年卒
北村 正孝	平林 明夫	中村 眞理子	幾留 孝司	稲葉 真之
佐藤 彰徳	山中 操	服部 洋一	清水 恵樹	春日 龍史
山梨 乾一	吉井 康雅	村井 信次	根本 俊寛	平成24年卒
佐藤 精二	渡辺 明典	谷藤 善美	昭和63年卒	石井 一隆
進藤 宣昭	大高 由輝	相場 一雄	歳森 幹生	今井 剛史
昭和44年卒	川津 義人	昭和55年卒	中道 幹芳	鈴木 晶太
安藤 純一	小宮 清子	小笠原 一恵	三井 宏	渡貴 泰寛
石井 和夫	坂口 信昭	小笠原 守人	村山 竜一	中村 汐梨
石山 利男	関口 優紀	金子 堅司	中西 剛	野口 しおり
井上 隆	梶井 敬観	黒瀬 健介	森田 孝節	水谷 祐貴
今脇 秀雄	矢田 智	齊藤 親二	平成元年卒	平成25年卒
岡本 彬	昭和49年卒	多田 康男	磯崎 誠也	田村 高大
北島 徹夫	相澤 貞	道家 裕	木方 真理子	早川 麻美子
鏡持 晃	青木 壮慈朗	波岡 宣彦	黒田 美和子	松山 史典
桜井 浩平	牛山 仁司	森 弘通	栗田 雅子	小田切 悠花
新藤 豊彦	岡田 雄二	木村 昌宏	和田 香織	平成26年卒
関口 信夫	久保 隆	昭和56年卒	平成2年卒	野中 裕名
田中 敦	小島 元昭	池田 実	三枝 正広	教職員
望月 正二	小林 正男	古屋 実	平成3年卒	大月 穂
花井 秀之	小茂田 英男	相場 雄子	村原 伸	長田 洋子
堀 昱弘	佐藤 憲一	木屋 幸蔵	穴山 正之	平野 勝巳
八幡 順一	澤口 孝志	今野 直哉	高田 昌子	青山 忠
横山 二郎	嶋村 典和	後藤 真一	平成4年卒	西村 克史
小栗 勝治	末木 康行	横山 聖一	宮崎 裕子	西宮 伸幸
小田原 豊	田島 平良	木村 文紀	加来 洋子	櫛 泰典
小林 勉	高本 秀夫	熊谷 一弘	林 由浩	梅垣 哲士
原 幸夫	湯川 吉美	大沼 明	藤池 一誠	須川 晃資
昭和45年卒	武安 栄樹	三橋 昭男	渡井 かよ子	小川 恵三
小林 満	館 徹	有川 俊一	松田 和夫	鈴木 佑典
篠崎 勝彦	福山 隆	昭和57年卒	平成5年卒	仁科 淳良
滝戸 俊夫	元木 英二	荒木 洋子	岩渕 弘晃	福川 美弥子
土田 久	谷島 和夫	黒坂 和弥	小泉 公志郎	
常木 英夫	山崎 純一	田島 みゆき	吉川 将史	
中澤 之博	昭和50年卒	小暮 勝彦	米田 哲也	
永島 一男	上田 賢二	小們 幸夫	平成6年卒	
成川 憲男	上條 治夫	佐藤 慎一	小池 芳暁	
服部 正隆	木股 茂	末澤 二朗	石黒 香織	
平塚 良一	汐澤 日出夫	中村 宏昭	遠山 岳史	以上699名
宮内 和司	中島 澄	中村 明裕	清水 孝	
宮川 晃一	野原 正男	久松 美樹	砂沢 周一	
望月 昭宏	中野 功	宮入 尚史	平成7年卒	
森川 美次	関口 真理	伊藤 和宏	岡田 賢識	

編集後記

本年度は滝戸先生、澤口先生を始め、岩村 秀先生、貝沼圭二先生など客員教授の先生方がご退任され、物質応用化学科の体制も大きく変化しました。学生実験も改訂され専門化学実験Ⅰ～Ⅵとなり、新しい助手、学生実験担当の非常勤の先生にもお手伝いいただき、社会で活躍できる学生を育てるべく教育をしております。学科の情報はホームページでも公開するようにしておりますので、是非ご覧ください。また、OB 会報告などの原稿を募集しております。E-mail だけでなく、郵送、FAX でも結構です。紙面に限りはありますが、工化時報を会員の皆様の情報交換の場としてご利用いただければ幸いです。また、会員の皆様方のご活躍の情報、ご意見等もお待ちしております。

(工化時報編集委員長 平野勝巳)

お知らせ

平成27年度の行事予定

5/30(土) 工化会総会 15:00～(8号館を予定)

※総会後、工化会ホームカミングデーを開催

7月下旬(土) 一日体験化学教室

8/1(土), 8/2(日) CST オープンキャンパス2015

連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問合せ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(平野 TEL:03-3259-0815, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

小川 誠, 永島一男, 橋本徳子, 須川晃資, 谷川 実,
遠山岳史, 西村克史, 萩原俊紀, 平野勝巳

学生編集委員

3年 田中紫織, 藤田久美子

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>